

株式会社 あしたのチーム

あしたのチームは、AIを利用して企業の人事評価制度をクラウドで提供している。コンサルティングから人事評価制度の構築、運用支援まで幅広いサービスをワンストップで用意している。

2018年9月で設立10年を迎え、今後はさらなる発展を目指して人事評価を軸に“人”に関する総合サービスの提供を目指している。

■ HR Technology をキーワードに成長を続ける

人材業界の最近のトレンドを示すキーワードに“HR Technology”という単語がある。HRはHuman Resources（日本語の人事を意味する）の略語だが、その分野に人工知能（AI）やビッグデータ解析などIoTと呼ばれるコンピュータを活用した先端技術を融合させて、人事に関わる業務の効率化や精緻化を目指す取り組みや動きを意味している。人材業界は、求人・採用、教育、労務管理、福利厚生、組織マネジメントと広範囲に業務が及ぶが、HR Technology は多岐にわたる業務をコンピュータでサポートするものだ。

あしたのチームは、このHR Technology を活用して成長を続ける新進気鋭の企業だ。同社は、中小ベンチャー企業に対して、人事評価制度の構築と運用サポートを行っている。ビジネスの特徴は、人事の担当者を企業に派遣するのではなく、インターネット経由に必要な情報をやり取りするクラウドコンピューティングのシステムを使い、人事評価に関する様々なサービスを企業に提供している。業種、職種、職責、入社年次など、社員の実務に即した評価の仕組みを提供するため、人事評価は各社各様だ。それら1つ1つの人事情報をデータベース化し、最適化された評価項目を顧客に提案している。



毎年9月に開催される「働き方改革実現アワード～あしたの人事評価アワード」の表彰式風景

あしたのチームが企業の人事評価制度づくりの段階からサポートに入り、評価に見合った報酬体系を設計し、運用の段階でクラウドシステムを導入する。現在、同社のサービスを採用している会社は全国で約1,300社ある。そのうちの90%が従業員100人未満の中小・ベンチャー企業だという。同社の取り組みについて赤羽博行社長は、「人事評価の仕組みがない企業では、当初はシンプルな仕組みを作って運用して頂く。その後、見直しをしていくことが継続するためには重要」と話す。

■ AI と対人面談の組み合わせが大事

同社が提供している人事評価制度は、基本となる成果評価だけでなく、成果を出すための行動（コンピテンシー）評価も行う仕組みである。これらを実評価対象者の職種や職位に応じて組み換えていく仕組みだ。評価対象者は自分自身が目標達成のために何をすべきなのかを自ら考え、クラウド上に保存する。上司は部下の目標を支援する中で、あしたのチームの“おせっかい”な運用サポートを受ける。

まずはあしたのチームが、社員個人個人の目標を、クラウドを通じて添削し、それを踏まえて上司から部下に「具体性・難易度・方向性」の観点でフィードバックを繰り返し、目標内容が決定する。さらに、この人事評価制度の特徴は、評価に加えて人材育成も兼ねている点が重要だ。評価は四半期に1度行うが、その過程で上司が部下と毎月面談をして、どうすれば目標達成できるのか話し合う。評価結果を基に給与査定を年2回行い、その結果を個人の給料に反映させる。

あしたのチームは社員が立てた目標を上司に提出する前に添削し、目標と照らし合わせながら、具体的にどのように改善すべきかアドバイスする。このフィードバックのコメントに同社はAIを活用している。社員がシステムに目標設定の文章を入力すると、AIがその内容を確認する。「目標がしっかりと具体的に書けているか」「添削の余地がない目標なのか」など自動で判断する高度なAI機能を持ったシステムの開発を進め、2018年度中には完全自動化システムを完成させる。

しかし、AI機能を重視する反面、「大事な事は機械が評価することではなく、人材育成の観点で、上司が部下と向き合って面談をし、フィードバックをしていくこと。この点は決して割愛してはいけない部分だと考える」（赤羽社長）とコンピュータと人間のバランスが大切と強調する。



2017年「人事評価アワード」ガイドブック

■ ほぼ全業種の人事評価制度を手掛ける

あしたのチームはこれまでに様々な事業者の人事評価制度を作ってきた。扱い件数では一般的な事業会社のものが最も多いが、中には北海道の“木こり”の人事評価や千葉の養豚場の人事評価、関西の牧場の人事評価などを手掛けた実績を持つ。また最近では、プロスポーツチームの人事評価制度の構築と運用もサポートしている。あらゆる業種、業態で人事評価制度を作り、現在ではほぼ全ての業種の事例がある。2017年には人事評価制度の導入企業が1,000社を超え、現在は1,300社に達する。現在、同社は全国47の都道府県に支社を設置しているが、ほかに全国で250人を越える社労士や税理士を「認定パートナー」として契約を結ぶ。企業の人事評価制度の構築は認定パートナーに委託し、構築後はあしたのチームのクラウドサービスと運用サポートを利用して貰う仕組みである。

同社はこれら全国ネットワークを通じて集まる導入事例の中から、働き方改革を実践した優れたケースを年1回事例紹介をする「あしたの人事評価アワード」を毎年9月に開催している。2018年は、9月27日、都内・品川で開催された。最優秀企業をはじめ、「生産性向上部門」「事業承継部門」「給与アップ部門」



高橋会長（左）と赤羽社長（右）

など11個の部門で計11社を表彰した。これら優れた企業のケースは、全国47の各都道府県に設置した支社を通じて推薦され、地域選考を経た中で選ばれた企業で、いずれの企業もあしたのチームの人事評価制度を導入したことで、業績向上、給与アップ、離職率低下など目覚ましい成果を挙げている。

企業が抱える課題は様々だ。同社の人事評価制度は、優秀人材の定着、採用力の向上、管理職の育成、生産性の向上、社員の給与アップなどを目標にしているが、最大の目標は企業の業績を上げる事だ。赤羽社長は「社員一人一人が会社の業績を達成するために、より明確な数字も含めた目標を持たされることで、圧倒的に生産性が変わる」とし、そのためにも「しっかりと社員が育っていくことが重要」と続ける。「あしたの人事評価アワード」は2016年にスタートし今年で3回目を迎えるが、取り組みは顧客である企業と同社の努力の集大成とも言えるものだ

■マンションの一室で起業

あしたのチームは現会長の高橋恭介氏が2008年9月に都内マンションの一室で1人で立ち上げた会社だ。株式会社ディーバとして起業し、途中、現社名に変更した。ユニー

クな社名だが、「あした」は企業の経営者や社員が明日に向かって改革を進め、「チーム」は社員一丸となって前に進むという事を意味している。高橋会長は、それまでの社会経験の中で同社の設立を温めてきた。大学卒業後、大手金融系のリース会社に就職し、そこで大企業の人事評価制度を経験する。その後、ブライダルジュエリーを扱う会

社に転職。副社長として人事業務に携わり、当時数十名だった同社を500人規模にまで成長させ、ブライダルジュエリー業界シェア1位に飛躍させた。人事評価制度に力を入れ、その結果、人材が定着し、人が育ち、そして業績が上がるという実体験を得た。高橋会長は、この成功体験を広く社会に利用して貰おうと、中小企業向けの人事評価サービスを行う目的で起業した。

創業時はリーマン・ショックが起きた直後で、中小企業が人事に関するサービスに予算を割く余裕はなく、採用に困っている企業も少なかった。また、今でこそ当たり前になったクラウドサービスを、当時、自社の人事情報を外部のデータベースに提供することに抵抗感も強かった。しかし高橋会長は、やがて



積極的な意見が飛び交う社内の会議風景

クラウドの時代が来ると予測し、創業2年目には外部のリソースを使う形でクラウドのサービスを開始する一方で、自社によるシステム開発も継続してきた。創業翌年の2009年、銀座一丁目に15坪にも満たないが小さな事務所を構えた。そこで社員をどんどん増やした。

業容は着実に拡大を続けて、今年7月には、銀座六丁目の大型複合ビル「GINZA SIX」に本社移転した。業績は2014年度から毎年、売上高ベースで年率200%成長を続け、2018年3月期で27.6億円（連結）。利益は起業から7年ほどは赤字続きであったが、2017年3月期決算では営業利益でようやく2.3億円の収益確保を実現した。拠点についても国内はほぼ各都道府県に拠点を配置でき、今後は海外展開も強化する。現在は、台湾、シンガポール、上海、そして香港に拠点を持つ。台湾は設立4年目を迎えている。海外では日系企業の現地法人をまず顧客対象にし、その後、現地のローカル企業に対する利用を展開しようとしている。

■ 今後はフィンテックと連動したビジネスを

成長が続く同社だが、今後の事業戦略は本業を強化しながら、ビジネスの幅を拡充させる展望を描く。本業については、同業他社の事業買収を進めながらサービスの拡充を目指す。2019年3月期決算では売上高58億円を計画するとともに、5年以内には時価総額



お客様との打合せ風景

1,000億円超に到達する見通しだ。その過程では株式上場も視野に入れている。

ITをフル活用した人材サービスを強化する一方で、今後は、FinTech（Financial × Technology：金融×科学技術）とも合わせていくような事業展開を数年後に考えている。赤羽社長は「われわれは“人”に関する分野で企業の与信、スコアリングができると思っている。スコアリングをしたものをFinTechとつながるビジネスを考えている」と構想を語る。日本に存在する株式会社の実に99.7%が中小企業、ベンチャー企業と言われているが、あしたのチームは、「中小・ベンチャー企業の生産性を上げていくことが我々の使命と考えている。中小・ベンチャー企業を元気にすることが日本が元気になる上で一番レバレッジが利く。今後も引き続き、そこに注力していきたい」（赤羽社長）と強調してみせる。

企業概要

株式会社あしたのチーム

<https://www.ashita-team.com/>

代表取締役会長：高橋 恭介

創業：2008年9月

事業内容：クラウド型運用による人事評価サービスの提供ほか

本社：東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX11F

電話番号：03-4577-3923

取引店：東京支店

